

写真1. 凝集塩 (No.15)

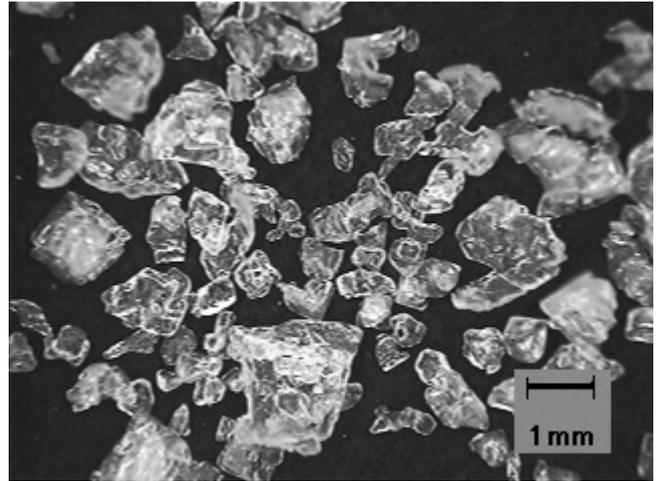


写真2. フレーク塩 (No.8)

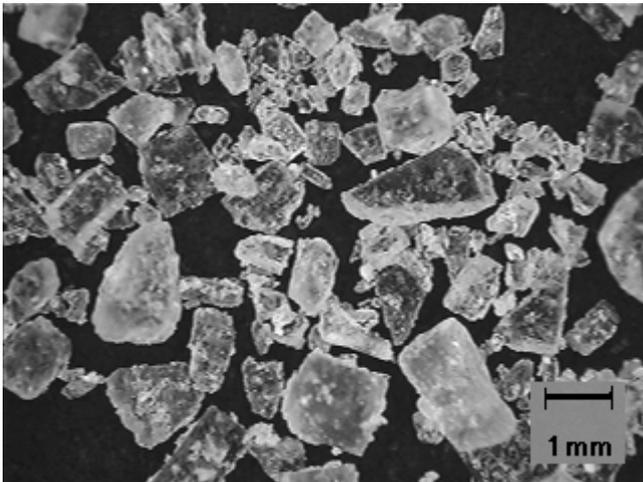


写真3. 粉碎塩 (No.13)

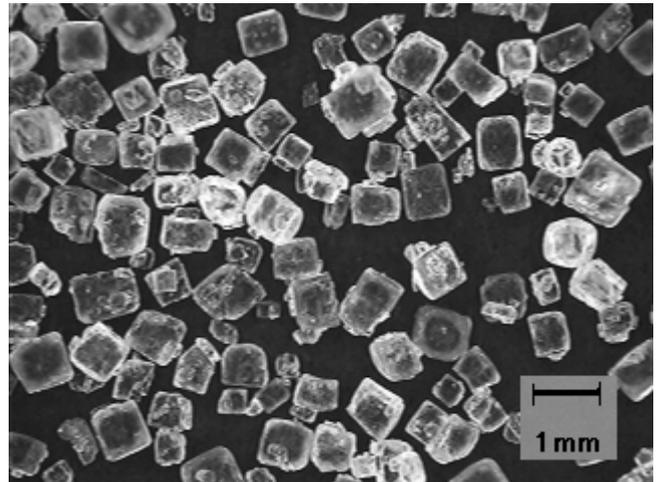


写真4. 立方体塩 (No.26)



写真5. トレミー塩 (No.4)

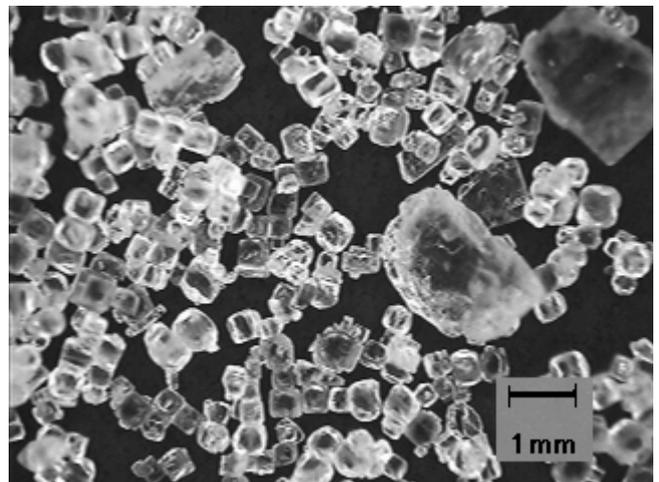


写真6. 混合塩 (No.32)

2. 2. 国内産乾燥塩(焼き塩含む)

乾燥塩の分析結果(表 3)において,加熱減量(水分)は加熱処理をしているにもかかわらず,0.5%以上の塩もある。これは,製品中に塩化マグネシウムが含まれ,乾燥後に吸湿してしまうためである。

乾燥塩の大きな特徴として,生活用塩のNo.39を除いて全てpHが9以上と高いことがあげられる。これ

は,加熱工程において,塩中の塩化マグネシウムが分解して塩基性塩化マグネシウムが生成される⁵⁾ためである。特に,No. 35, 37, 38は,難溶性の塩基性マグネシウム化合物を含み,水に溶解すると白濁し,不溶解分として検出された。

乾燥塩の原料については,結合組成からはイオン交換膜製法塩(塩カル系)と天日塩(硫マ系)とが半々